

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部)― コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部)― 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)―

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 2009年4月に「本研究科運用内規」に設定し、院生には「履修心得」で公表した課程博士学位取得プロセスに基づき、博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位を取得させるように、指導体制を強化する。	→博士課程後期課程修了までの5年間で博士学位申請者数、取得者数。	B
2. 受講希望院生の需要に応じて、マクロ・ミクロ計量分析の講義・演習を弾力的に「特殊講義」「特殊演習」で開講可能できるように、大学に必要な予算措置を要求して(PC、更新も含むソフトウェア等の整備)物理的体制を確保し、後期課程へ進学する研究者養成のみならず、前期課程における高度職業人へのデータ分析の演習教育を強化する。	→出口の需要や院生の研究テーマや将来の進路希望に応じ、大学から必要な予算措置を伴う物理的体制整備が得られれば、選択必修科目化し、そのうえでのマクロ・ミクロ計量分析の講義・演習科目開講数、受講者数。	B
3. 研究者養成については、大学院生の研究活動支援の強化と国内外の他大学大学院生との連携教育プログラム(他大学大学院との単位互換協定の締結や現行では授業科目化されていない「経済学ワークショップ」の授業科目化)により、実質化する。エコノミストコースについては本学他研究科との連携により、カリキュラム・プログラムを段階的に再編する。	→他大学大学院との単位互換協定の締結。「経済学ワークショップ」など「セミナー、ワークショップ」の授業単位化。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

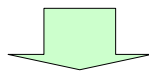
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 優れた課程博士の育成。 (現状説明) 教育課程の再編成は検討中であり、学部を含めた改革の検討を開始している。 1. 博士課程入学後5年間の学位取得した者は0人であるが、課程博士号取得者は3名(申請者5名、うち1名は継続審査中)であった。そのために、集団指導体制として共同演習制度を開講し、演習担当者以外の教員も含めた指導をおこなった。 2. 「特殊講義」「特殊演習」での開講には至っていない。 3. 関西四大学単位互換協定により2009年度は立命館大学(前期課程)より2名受け入れを行った。セミナー・ワークショップは定期的開催はしているが、単位化は実施されていない。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 「変化する学問動向への対応」および「高度職業人育成」の双方が可能なカリキュラムを用意しているが、学部生からの進学率を高めるためには、学部教育と継続性のある、一貫したプログラム作りが必要であり、検討を開始したばかりである。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



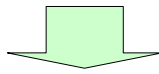
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

<p>【学外委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」1の「指導体制」は次項の6.3.1に配置するのが適切でしょう。 ○「現状説明」で言及されている教育課程の再編の早期実現が望まれます。 <p>【学外委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育課程は編成を検討中とのことです。早期に具体的な改革のための方策がまとめられることが期待されます。 ○目標2、3について、進捗評価Bということですから、それらの詳しい状況も現状説明に記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

＜個別的な指標＞
